大阪あちこち

●小楠公墓所と四條畷神社

四條畷市は、大阪府の東北部に位置し、市域の約３分の２が北生駒山地で占められている緑豊かなまちです。まちの歴史は古く、河内・大和間の文化交流の中継点として早くから開けていましたが、平安時代には、市内を南北に走る東高野街道に沿う交通の要衝地となりました。

南北朝時代の正平三年（1348年）には、南朝方の楠木正成（まさしげ）の長男である楠正行（くすのきまさつら）が、わずか３千の兵を率いて、北朝方の足利一門の武将、高師直（こうのもろなお）が率いる６万の大軍と戦い、８時間に及ぶ激戦の末、楠正行が討ち倒された地でもあります。のちに「四條畷の合戦」と呼ばれたこの戦いの後、小楠公墓所（しょうなんこうぼしょ）及び四條畷神社が建てられ、現在の市名の起源となっています。

小楠公墓所は、当初は「四條畷の合戦」から80年ほど後に正行を偲んで古戦場跡に建てられた小さな石碑でしたが、石碑の左右に植えられた2本の楠が成長して1本に合わさり、石碑を包み込んでしまいました。楠は、現在では樹齢約550年、幹の周り12mにおよぶ大木に成長し、府指定の「天然記念物」とされています。

小楠公墓所

四條畷神社

す。その後、明治８年には墓所面積も1054坪に拡張されるとともに、大久保利通の揮毫（きごう）が入った7.5メートルもの高さの石碑が建てられ、現在に至っています。

また、四條畷神社は、楠正行や他の戦死者をまつるために、住吉平田神社の神主が明治政府にかけあい建設されたもので、明治22年に着工しました。当初は小楠公墓所に神社を建てる予定でしたが、十分な広さの境内が確保できないという理由で真東に１km行った飯盛山のふもとに建てることとなりました。地元の人々が土地や資金を提供するだけでなく、工事の作業も手伝うほど神社の創建に尽力し、明治23年４月に完成、鎮座祭が行われました。

四條畷神社が地域に与えた影響は大きく、明治28年には、参拝者を運ぶために鉄道も敷設されました。境内には桜や楓が植えられており、特に春と秋の景観が見事で、年間25万人以上もの参拝者が訪れる本市の観光名所となっています。

▼お問い合わせ先▼

四條畷市市民生活部産業労働課

TEL　072−877−2121（内線 541）